

箕面勝尾寺鳥獸保護区特別保護地区

**鳥獸保護区更新調査業務
報告書**

令和3年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

目次

1. 調査の目的.....	1
2. 調査区域及び調査対象.....	1
3. 調査内容.....	1
4. 調査地の概要及び環境.....	3
5. 調査方法.....	4
6. 調査範囲・調査地点.....	5
7. 調査結果.....	6
7-1 現地調査結果.....	6
7-2 文献・資料調査結果.....	15
8. まとめ.....	22
9. 参考文献.....	28

1. 調査の目的

この調査は、大阪府が指定した既存鳥獣保護区のうち、箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区の存続期間の更新等についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査区域及び調査対象

箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区に生息する野生鳥獣等を調査対象とする。箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区の範囲は図 3-1 に示す。

3. 調査内容

現地調査及び既存データの整理により、下記の事項を把握する。

- ・ 調査地の概要及び環境（地形、植生の状況等）
- ・ 鳥獣生息状況（リスト作成）、生息密度、特色

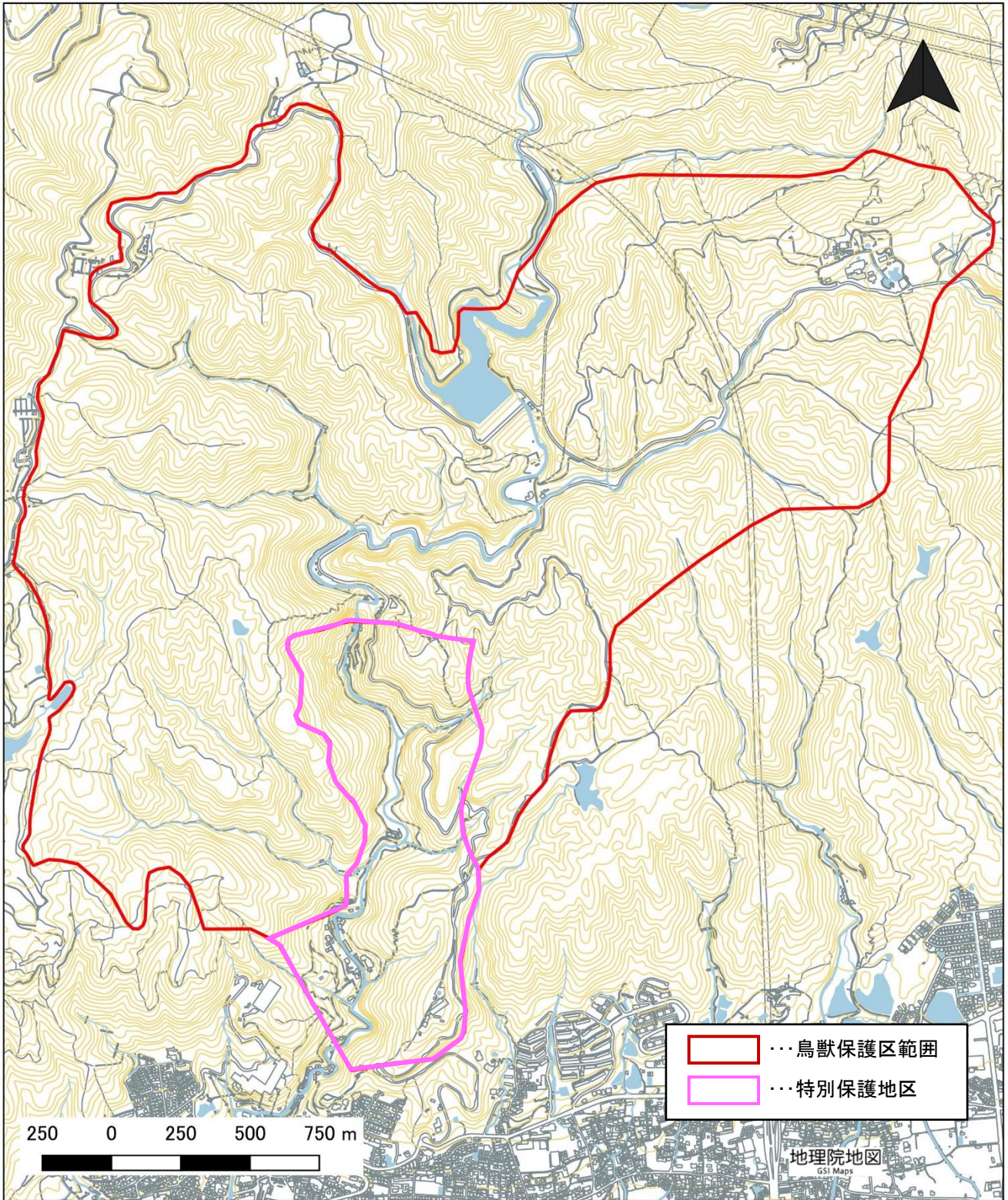


図 3-1 箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区の範囲

4. 調査地の概要及び環境

箕面勝尾寺鳥獣保護区は、大阪府の北西部、箕面市のほぼ中央部にあり、西側を池田市に接するが、それ以外の境界線は箕面市内にある。鳥獣保護区の面積は約 629ha である。南から東に接して箕面特定猟具使用禁止区域（約 2,858ha）がある。

箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区は鳥獣保護区内の南部、滝道に沿った約 70ha であり、鳥獣保護または鳥獣生息域の保護を特に必要としている地区である。

特別保護地区は箕面滝に至るまでの箕面川と、その両岸の溪谷と山林が主な環境であり、開水面は見られない。植生では滝道上部の溪畔がイロハモミジ・ケヤキ群集、滝道下部はシイ・カシ二次林を核とし、尾根に近い斜面上部にアベマキ・コナラ群集が含まれる。これは現在では尾根部にほぼ限定されるモチツツジ・アカマツ群集が、松枯れの蔓延によって置換したものである。

特別保護地区の一角は明治 31 年に箕面公園として設立された地域であり、古くから滝と猿、溪流と楓で知られ、大阪府を代表する自然景観のすぐれた地域として知られている。昭和 32 年には当時の文化庁によって「名勝箕面山」として指定された。また同時期、都市近郊で野生のニホンザルの生態や行動を観察できるきわめて貴重な場所として、「天然記念物箕面山サル生息地」に指定されている。しかしその後、餌付けなどにより人慣れしたサルが人を襲うなどの被害が生じ、箕面市がサルを自然に返す試みを続けている。昭和 42 年（1967 年）には明治百年記念準備会議において「郊外に明治の森（自然公園）の建設整備を促進する」ことが決定されたのを受け、箕面公園と旧藩領地と旧寺領地を前身とする国有林を含む周辺の山林を合わせた 963ha が明治の森箕面国定公園として指定された。

特別保護地区内の施設としては、滝道沿いに府営の箕面昆虫館があり、箕面をはじめ国内外の珍しい昆虫標本を展示するとともに、さまざまな催しを開催している。このほか山岳信仰修験道の根本道場となっている箕面四大弁財天の龍安寺があり、多くの観光客が訪れている。

都市近郊に位置する地理条件から四季を通じて自然愛好家、ハイカーや観光客が多く、年間約 150 万人を超える利用者がある。特に晩秋の紅葉の季節には、箕面滝を中心に観光客が多い。

- 参考：「箕面の自然－その生態学的基礎研究－」（1967 年、水野寿彦・水野信彦 編）
「名勝箕面山保存管理計画」（1989 年、大阪府教育委員会）
「箕面勝尾寺鳥獣保護区指定調査報告書」（2011 年、大阪府）
「箕面国有林概要」（近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所 箕面森林事務所）
「第五次箕面市総合計画 後期基本計画」（2016 年、箕面市）
「箕面公園マネジメントプラン」（2020 年、池田土木事務所）

5. 調査方法

調査は、現地調査および表 5-1 に示す文献による文献調査、哺乳類については特別保護地区内に位置する施設や特別保護地区で活動する団体への聞き取り調査を実施した。

現地調査は、ラインセンサス法と定点観察、任意観察により実施した。ラインセンサス法では、調査ルートを約 2km/h の速度で歩き、片側 25m 両側合わせて 50m の範囲の鳥獣を記録した。調査ルートは、滝道の対岸となる箕面川左岸を伝う山道のルート（1.18km）を設定した。定点観察では、調査定点に 30 分間滞在し、確認された鳥類を記録した。調査地点は特別保護地区の上空を一望できる望海展望台に設定した。各ルート及び定点の位置は図 6-1 に示すとおりである。任意観察では、特別保護地区内をなるべく偏りなく歩いて確認された鳥類を記録するように努めたが、調査範囲の北西部には立ち入り禁止となっている地域が広くあり、この範囲には踏査が及んでいない。調査時期は、繁殖期、秋の渡り期及び越冬期とした。

確認された種から重要種を抜粋した。重要種の選定基準は表 5-2 に示すとおりである。

表 5-1 参考文献・参照資料

文献 No.	文献・情報名	発行または実施年・発行者
文献 1	箕面定例探鳥会出現鳥記録	2011 年～2021 年・野鳥の会大阪支部
文献 2	大阪府鳥類目録 2016	2016 年・野鳥の会大阪支部
文献 3	自動撮影カメラを用いた野生動物モニタリングデータ	2016 年 10 月～・大阪府立環境農林水産総合研究所および明治の森箕面自然休養林管理運営協議会

表 5-2 重要種の選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）
環境省レッドリスト 2020（環境省 R L）
大阪府レッドリスト 2014（大阪府 R L）

6. 調査範囲・調査地点

調査範囲は箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区全域とした。ラインセンサスに用いたルート（R1）及び定点観察に用いた地点（P1）は、図 6-1 に示すとおりである。

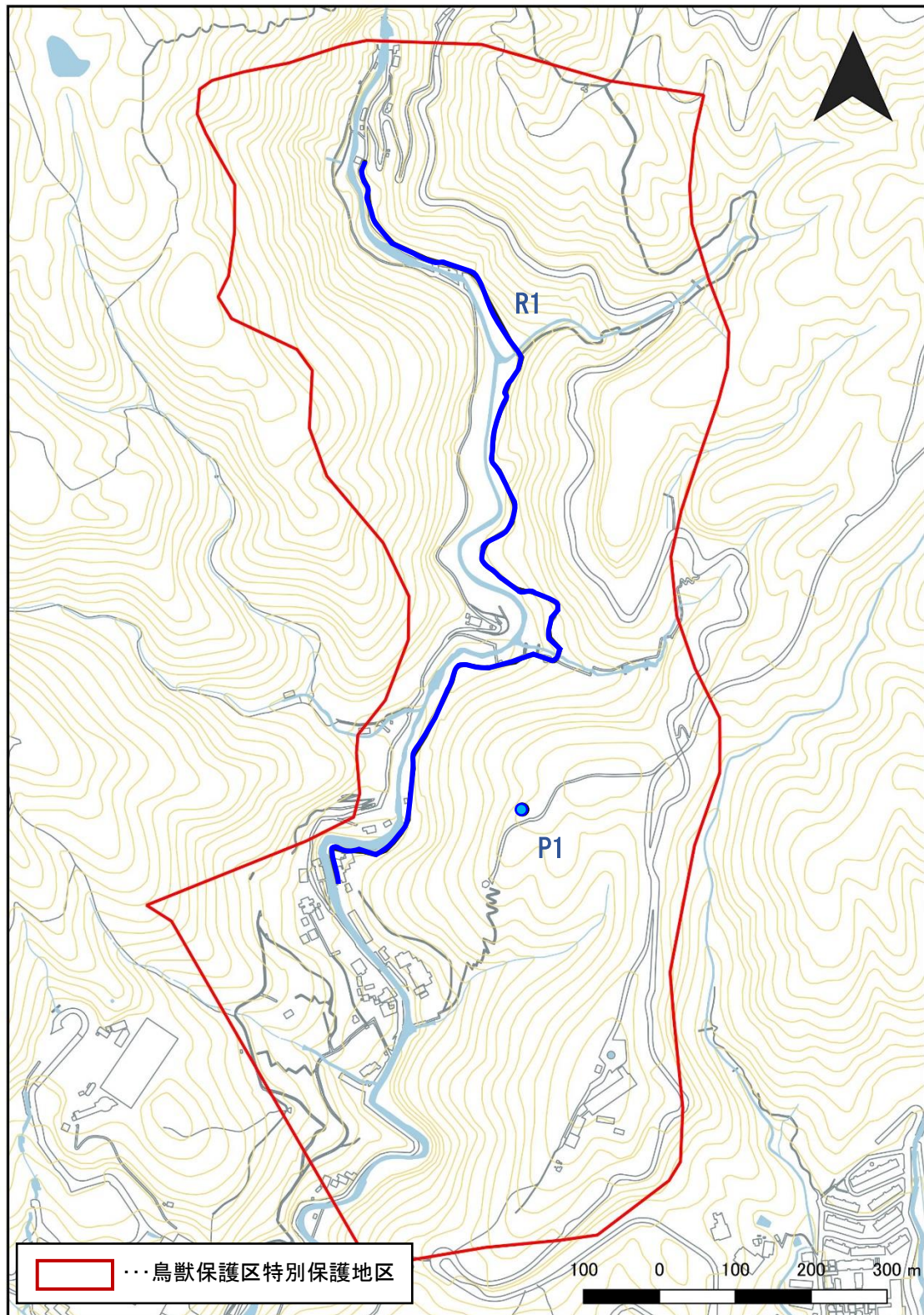


図 6-1 調査地点

7. 調査結果

7-1 現地調査結果

① 調査時期・天候・時間

現地調査時期、天候、調査時間を表 7-1 に示す。

表 7-1 調査時期・天候・調査時間

調査時期	調査日時	天候	調査時間	
繁殖期	令和 3 年 6 月 5 日	晴れ	R1	6:40~8:14
			P1	9:40~10:10
			任意	11:05~15:00
秋期	令和 3 年 10 月 4 日	晴れ	R1	9:12~9:47
			P1	10:10~10:40
			任意	9:47~10:10 10:40~15:00
	令和 3 年 10 月 12 日	曇りのち晴れ	任意	7:00~13:00
越冬期	令和 4 年 1 月 5 日	晴れ	R1	9:40~10:40
			P1	12:13~12:43
			任意	7:00~9:40 10:40~13:30
	令和 4 年 2 月 5 日	晴れ	任意	11:30~14:00

② 鳥類確認種

現地調査の結果、9目24科39種の鳥類を確認した。確認種の一覧を表7-3に示す。

現地調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥24種、夏鳥7種、冬鳥6種、旅鳥1種であり、留鳥61%、夏鳥18%、冬鳥15%、旅鳥3%と、一年を通してみられる留鳥が半数以上を占めた（表7-2、図7-1）。渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」（2017年3月31日、（財）日本野鳥の会大阪支部）に従った。

なお、大阪府鳥類目録で旅鳥（一部夏鳥）とされているコサメビタキについては、繁殖期に確認されたことから夏鳥として扱った。また、夏鳥のサンショウクイが冬季に確認されているが、これは近年分布を拡大している亜種リュウキュウサンショウクイである。

表 7-2 確認種の渡り区分

渡り区分	種数	割合
留鳥	24種	61%
夏鳥	7種	18%
冬鳥	6種	15%
旅鳥	1種	3%
外来種	1種	3%

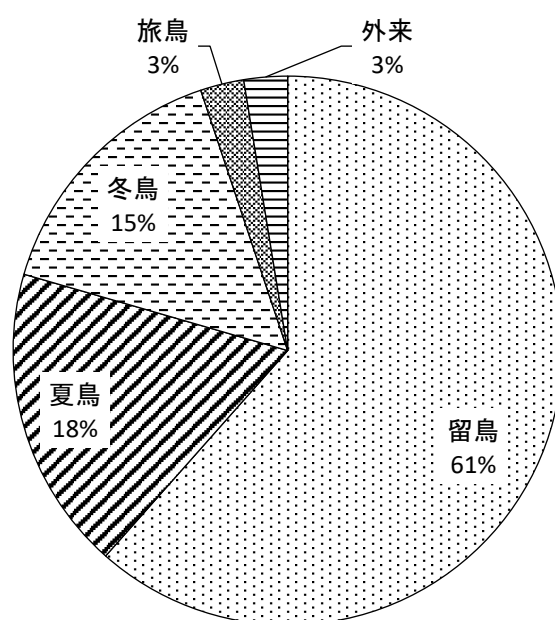


図 7-1 現地調査 渡り区分の内訳

表 7-3 現地調査 鳥類確認種

No.	目名	科名	学名	種名	繁殖期	秋期	越冬期	渡り区分	
1	カモ	カモ	カルガモ	Anas zonorhyncha	○			留鳥	
2	ハト	ハト	キジバト	Streptopelia orientalis		○	○	留鳥	
3	カツオドリ	ウ	カワウ	Phalacrocorax carbo	○			留鳥	
4	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ	Apus nipalensis		○		留鳥	
5	タカ	ミサゴ	ミサゴ	Pandion haliaetus	○		○	留鳥	
6		タカ	トビ	Milvus migrans		○	○	留鳥	
7			ノスリ	Buteo buteo		○	○	冬鳥	
8	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	Alcedo atthis	○			留鳥	
9	キツツキ	キツツキ	コゲラ	Dendrocopos kizuki	○	○	○	留鳥	
10			アオゲラ	Picus awokera	○	○	○	留鳥	
11	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	Falco peregrinus	○			留鳥	
12	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	Pericrocotus divaricatus	○	○	○	夏鳥	
13		カササギヒタキ	サンコウチョウ	Terpsiphone atrocaudata	○			夏鳥	
14		カラス	ハンボンガラス	Corvus corone		○	○	留鳥	
15			ハシブトガラス	Corvus macrorhynchos	○	○	○	留鳥	
16		シジュウカラ	ヤマガラ	Poecile varius	○	○	○	留鳥	
17			シジュウカラ	Parus minor	○	○	○	留鳥	
18		ツバメ	ツバメ	Hirundo rustica	○			夏鳥	
19			コシアカツバメ	Hirundo daurica	○			夏鳥	
20		ヒヨドリ	ヒヨドリ	Hypsipetes amaurotis	○	○	○	留鳥	
21		ウグイス	ウグイス	Cettia diphone			○	留鳥	
22			ヤブサメ	Urosphena squameiceps	○			留鳥	
23		エナガ	エナガ	Aegithalos caudatus	○	○	○	留鳥	
24		ムシクイ	オオムシクイ	Phylloscopus examinandus		○		旅鳥	
25			センダイムシクイ	Phylloscopus coronatus	○			夏鳥	
26		メジロ	メジロ	Zosterops japonicus	○	○	○	留鳥	
27		ヒタキ	シロハラ	Turdus pallidus				○	冬鳥
28			ルリビタキ	Tarsiger cyanurus				○	冬鳥
29			ジョウビタキ	Phoenicurus aureus				○	冬鳥
30	コサメビタキ		Muscicapa dauurica	○	○			夏鳥	
31	キビタキ		Ficedula narcissina	○				夏鳥	
32	オオルリ		Cyanoptila cyanomelana	○				留鳥	
33	セキレイ		キセキレイ	Motacilla cinerea	○	○	○	留鳥	
34		セグロセキレイ	Motacilla grandis		○		留鳥		
35	アトリ	カワラヒワ	Chloris sinica	○			留鳥		
36		イカル	Eophona personata			○	留鳥		
37	ホオジロ	アオジ	Emberiza spodocephala			○	冬鳥		
38		クロジ	Emberiza variabilis			○	冬鳥		
39	(スズメ)	(チメドリ)	ソウシチョウ	Leiothrix lutea			○	外来種	
合計	9 目	24 科	39 種		24 種	18 種	23 種	—	

- ・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。
- ・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」(2017年3月31日, (財)日本野鳥の会大阪支部)に従った。

③ 鳥類の繁殖状況

繁殖期調査において確認された 24 種については、いずれも調査範囲及びその周辺で繁殖している可能性がある（繁殖ランク C に該当）。このうち 12 種は現地調査において繁殖を示唆する行動が確認され（繁殖ランク A 及び B）、調査範囲内で繁殖している可能性が高い。その内訳は表 7-4 に示すとおりである。繁殖行動の判定基準は、全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（NPO 法人バードリサーチ、<https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）に準じた。

表 7-4 鳥類の繁殖状況

ランク	観察コード	観察事項	該当種
A (繁殖を確認) 1 種	19	ヒナの声をきいた	アオゲラ
B (繁殖の可能性が高い) 11 種	30	その種が営巣し得る環境で繁殖期に、その種のさえずり（キツツキ類のドラミングを含める）を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く	サンコウチョウ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヤブサメ、センダイムシクイ、メジロ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ
	36	成鳥が巣材を運搬している。ただし、明らかに周囲に巣を構えていると思われる場合に限る	メジロ
	39	かなり移動可能と思われる巣立ちヒナを見た	ヤマガラ、ヤブサメ、ヒヨドリ、キビタキ
	40	家族群を見た	エナガ
C (繁殖の可能性あり) 12 種	50	その種が営巣し得る環境で繁殖期にその種を確認したが、他には繁殖の兆候が認められない。ただし冬鳥または旅鳥は過去にその地方で繁殖の記録があるもの	カルガモ、カワウ、ミサゴ、カワセミ、コゲラ、ハヤブサ、サンショウクイ、ハシブトガラス、ツバメ、コシアカツバメ、コサメビタキ、カワラヒワ

※全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（2014, NPO 法人バードリサーチ <https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）を参照し、該当箇所を抜粋して作成した。

④ 鳥類の生息個体数

ラインセンサス及び定点観察による調査の結果、7目19科29種238羽の鳥類を確認した。各調査方法における調査回毎の個体数を表7-6に示す。ラインセンサスR1では21種168羽、定点調査P1では22種70羽を確認した。ラインセンサスでは繁殖期、秋期、越冬期を通じてヒヨドリ、メジロの個体数が多かったが、繁殖期にはオオルリ、越冬期にはエナガ、ソウシチョウがこれに準じて多く確認された。定点観察では確認された種数、個体数はあまり多くなかったが、上空を飛翔するミサゴ、ノスリなどの猛禽類、ツバメ類、カルガモなどが記録された。

環境は山林が主体であるため、樹林性のメジロ、ヒヨドリが多く、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガといった、群れで樹林を移動しながら採餌する種がこれに続いた。また、箕面川の溪流を中心とした地域であることから、オオルリもこれらと同等の個体数が確認された。

表 7-5 調査回・ルート毎の確認個体数

No.	目名	科名	種名	R1				P1				総計	
				繁殖期	秋期	越冬期	計	繁殖期	秋期	越冬期	計		
1	カモ	カモ	カルガモ					2			2	2	
2	カツオドリ	ウ	カワウ	1			1					1	
3	タカ	ミサゴ	ミサゴ							1	1	1	
4		タカ	トビ			1	1		3		3	4	
5			ノスリ						1	1	2	2	
6	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	2			2					2	
7	キツツキ	キツツキ	コゲラ	2		6	8		1		1	9	
8			アオゲラ					1		1	2	2	
9	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ					1			1	1	
10	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ		5	1	6	1		1	2	8	
11		カラス	ハシボソガラス			1	1			1	1	2	
12			ハシブトガラス	2		3	5	2	1	3	6	11	
13		シジュウカラ	ヤマガラ	3	2	4	9	4			4	13	
14			シジュウカラ	1	2	7	10	1	2		3	13	
15		ツバメ	ツバメ					2			2	2	
16			コシアカツバメ					1			1	1	
17		ヒヨドリ	ヒヨドリ	11	12	10	33	5	6	6	17	50	
18		ウグイス	ウグイス			1	1			1	1	2	
19			ヤブサメ	6			6	1			1	7	
20	エナガ	エナガ	1		10	11					11		
21	ムシクイ	センダイムシクイ	6			6	2			2	8		
22	メジロ	メジロ	10	19	11	40	4	4	6	14	54		
23	ヒタキ	シロハラ								1	1	1	
24		ルリビタキ			2	2						2	
25		コサメビタキ	1			1						1	
26		キビタキ	2			2	1				1	3	
27		オオルリ	11			11	2				2	13	
28		セキレイ	3			3						3	
29	(スズメ)	(チメドリ)	ソウシチョウ			9	9					9	
	7目	19科	29種	種数	15	5	13	21	15	7	10	22	29
				個体数	62	40	66	168	30	18	22	70	238

⑤ 鳥類の生息密度

ラインセンサス法は、設定したルート of 両側 25m 内で確認された鳥類を記録した結果であるため、ラインの距離×50m の面積中に生息する個体数を示すものである。この個体数を面積で除算することで、各種鳥類の生息密度が計算される。各期の各ルート及び、全ルートを合計した場合の、鳥類の 1ha あたりの生息密度を表 7-6 に示す。

生息密度は繁殖期にはメジロ、ヒヨドリとともに沢沿いを好むオオルリの生息密度が高く、箕面川の溪流を軸とする特定保護地区の鳥類の生息状況をよく反映した。秋期にはメジロ、ヒヨドリが突出して高くなり、渡りの時期に多くの個体が通過していると考えられる。越冬期にはやはりメジロ、ヒヨドリの生息密度が高かったことに次ぎ、群れて林内を移動するエナガの生息密度が高かったが、同じく群れて行動する外来種のソウシチョウが、これと並んで生息密度が高かった。また、鳥類全般では繁殖期と越冬期ではほぼ同等の生息密度となったが、繁殖期はオオルリを始めヤブサメ、センダイムシクイ等なわばりを張って繁殖する鳥の密度の高いことが、越冬期はエナガ、ソウシチョウをはじめとしてシジュウカラ、ヤマガラのような群性のある種の生息密度の高さが特徴となっている。

表 7-6 個体数密度

(羽/1ha)

No.	目名	科名	種名	繁殖期	秋期	越冬期
1	カツオドリ	ウ	カワウ	0.17		
2	タカ	タカ	トビ			0.17
3	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	0.34		
4	キツツキ	キツツキ	コゲラ	0.34		1.02
5	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ		0.85	0.17
6		カラス	ハシボソガラス			0.17
7			ハシブトガラス	0.34		0.51
8		シジュウカラ	ヤマガラ	0.51	0.34	0.68
9			シジュウカラ	0.17	0.34	1.19
10		ヒヨドリ	ヒヨドリ	1.86	2.03	1.69
11		ウグイス	ウグイス			0.17
12			ヤブサメ	1.02		
13		エナガ	エナガ	0.17		1.69
14		ムシクイ	センダイムシクイ	1.02		
15		メジロ	メジロ	1.69	3.22	1.86
16		ヒタキ	ルリビタキ			0.34
17			コサメビタキ	0.17		
18			キビタキ	0.34		
19			オオルリ	1.86		
20		セキレイ	キセキレイ	0.51		
21	(スズメ)	(チメドリ)	ソウシチョウ			1.53
			鳥類全種	10.51	6.78	11.19

⑥ 重要種

現地調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は3目7科8種であった。確認された重要種を表7-7、確認位置を図7-2に示す。

今回の調査で、種の保存法記載種が1種、環境省レッドリスト記載種が4種、大阪府レッドリスト記載種が5種確認された。重要種のうち、繁殖期に確認されたものはミサゴ、ハヤブサ、コシアカツバメ、サンショウクイ、センダイムシクイ、コサメビタキの6種であった。

表 7-7 確認された重要種

No.	目名	科名	種名	学名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>		NT	
2		タカ	ノスリ	<i>Buteo buteo</i>			NT
3	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○	VU	
4	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>		VU	VU
5		ツバメ	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>			NT
6		ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>		DD	
7			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>			NT
8		ヒタキ	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>			VU
計	3目	7科	8種		1種	4種	5種

VU：絶滅危惧Ⅱ類
NT：準絶滅危惧種
DD：情報不足

絶滅の危険が増大している種
現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
評価するだけの情報が不足している種

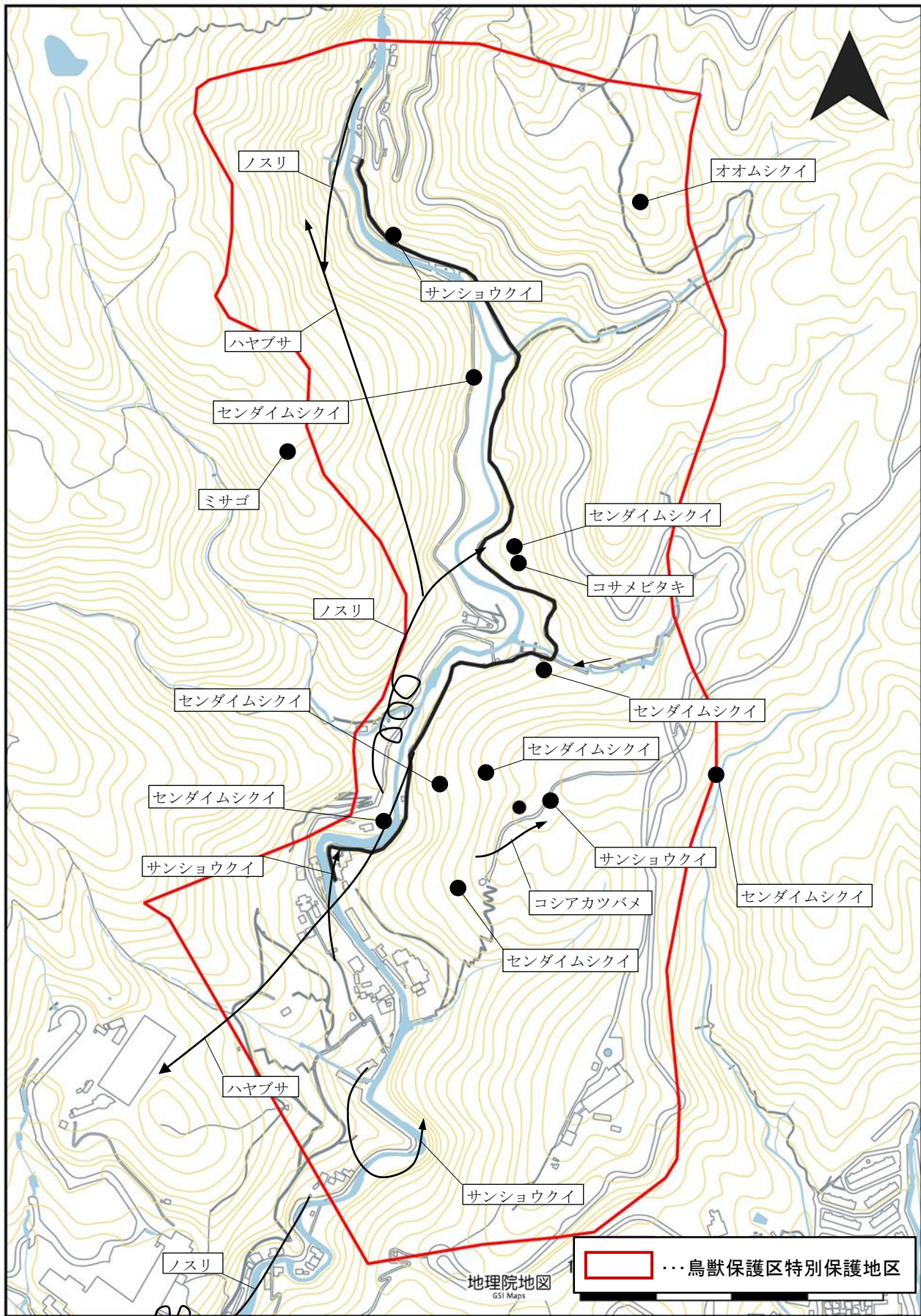


図 7-2 重要種確認位置図哺乳類確認種

現地調査の結果、3目3科3種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表7-8示す。学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定2版」(東海大学出版会、2008)に従った。

表 7-8 現地調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	種名	学名	確認状況
1	サル目	オナガザル科	ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>	目撃
2	ネズミ目	リス科	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	目撃、食痕
3	鯨偶蹄目	イノシシ科	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	掘り返し
合計	3目	3科		3種	

⑧ 哺乳類重要種

現地調査で確認された哺乳類のうち、重要種に該当する種は1目1科1種であった。確認された重要種を表7-9に示す。現地調査で確認されたのは大阪府レッドリスト記載種が3種であった。

なお、箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区では、「箕面山のニホンザル生息地」が天然記念物として指定されている。

表 7-9 確認された重要種

No.	目名	科名	種名	学名	文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	サル目	オナガザル科	ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>	※			NT
計	1目	1科	1種		1種	0種	0種	1種

NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 ※箕面山のニホンザル生息地として天然記念物に指定。

1-1 文献・資料調査結果

表 5-1 で示したそれぞれの文献・資料の記載概況を表 7-10 に示す。

表 7-10 文献概要

文献 No.	文献・情報名	文献・情報の内容
文献 1	箕面定例探鳥会出現鳥記録 (野鳥の会大阪支部)	大阪支部にて毎月行われている定例探鳥会の箕面における 2011 年～2021 年の観察鳥類。特別保護地区以外の地域の記録も含まれる。
文献 2	大阪府鳥類目録 2016 (野鳥の会大阪支部)	2002 年 4 月～2016 年 3 月までの大阪支部報、むくどり通信に記載された記録から箕面において確認された種を抜粋。特別保護地区以外の地域の記録も含まれる。
文献 3	自動撮影カメラを用いた野生動物モニタリングデータ (大阪府立環境農林水産総合研究所および明治の森箕面自然休養林管理運営協議会)	2016 年 10 月より開始された、ニホンジカの生息状況把握を主目的として実施されている調査のデータ。特別保護地区内の 3 カ所にトレイルカメラが設置されており、他の哺乳類や鳥類も撮影されている。

① 鳥類確認種

文献調査の結果、16目44科128種の鳥類を確認した。確認種を表7-12に示す。文献別では、文献1で116種、文献2で106種、文献3で5種が確認された。

文献調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥54種、夏鳥18種、冬鳥39種、旅鳥13種、迷鳥1種であった（表7-11、図7-3）。現地調査と同様、留鳥の占める割合が最も高く、42%であった。現地調査とは旅鳥の割合が高い点が異なり、全体の10%を旅鳥が占めていた。短期間の滞在で渡去してしまう旅鳥は、単年度の調査では確認されない場合も多く、集積された文献・資料でのみ確認される種が少ない。なお、渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」（2017年3月31日、（財）日本野鳥の会大阪支部）に従った。同目録において、旅鳥（一部夏鳥）とされているコサメビタキは、現地調査における出現状況を踏まえて夏鳥とした。また、旅鳥（一部冬鳥）とされているアカハラについては、現地における確認が得られなかったため、旅鳥として扱った。

表 7-11 文献概要

渡り区分	種数	割合
留鳥	54種	42%
夏鳥	18種	14%
冬鳥	39種	31%
旅鳥	13種	10%
迷鳥	1種	1%
外来	3種	2%

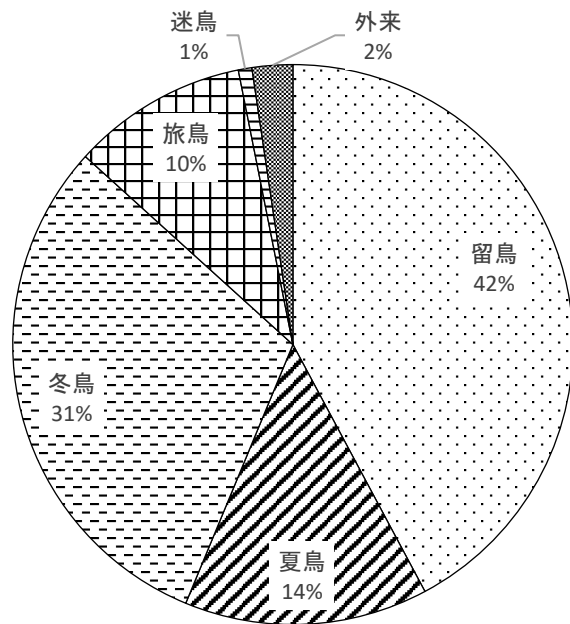


図 7-3 文献調査 渡り区分の内訳

表 7-12 文献調査 鳥類確認種(1/3)

No.	目名	科名	種名	学名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分
1	キジ	キジ	ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>		○		留鳥
2			キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	○	○		留鳥
3	カモ	カモ	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	○	○		冬鳥
4			オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	○			冬鳥
5			ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	○	○		冬鳥
6			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	○	○		冬鳥
7			アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>	○			冬鳥
8			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	○	○		冬鳥
9			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○	○		留鳥
10			ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>	○			冬鳥
11			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	○			冬鳥
12			コガモ	<i>Anas crecca</i>	○	○		冬鳥
13			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	○	○		冬鳥
14			アカハジロ	<i>Aythya baeri</i>	○			迷鳥
15			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	○	○		冬鳥
16			ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>	○			冬鳥
17	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	○	○		留鳥
18			カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	○			冬鳥
19	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	○	留鳥
20			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	○	○		留鳥
21	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○	○		留鳥
22	ペリカン	サギ	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○	○		留鳥
23			ササゴイ	<i>Butorides striata</i>		○		夏鳥
24			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○	○		留鳥
25			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○			留鳥
26			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	○			留鳥
27			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	○	○		留鳥
28	ツル	クイナ	バン	<i>Gallinula chloropus</i>	○	○		留鳥
29			オオバン	<i>Fulica atra</i>	○	○		留鳥
30	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	○	○		夏鳥
31			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	○	○		夏鳥
32			カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	○			夏鳥
33	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	○	○		旅鳥
34			ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>	○	○		留鳥
35	チドリ	チドリ	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>	○	○		留鳥
36			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>		○		留鳥
37			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	○	○		留鳥
38		シギ	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>	○			冬鳥
39		カモメ	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	○			冬鳥
40	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	○		留鳥
41		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	○	○		夏鳥
42			トビ	<i>Milvus migrans</i>	○	○		留鳥
43			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	○	○		留鳥
44			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○	○		冬鳥
45			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	○	○		留鳥
46			サシバ	<i>Butastur indicus</i>	○	○		夏鳥
47			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○	○		冬鳥
48	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	○		○	留鳥
49			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	○	○		夏鳥
50	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○	○		留鳥
51		ブッポウソウ	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>		○		旅鳥
52	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○	○		留鳥
53			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	○	○		留鳥
54			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	○	○		留鳥
55	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	○	○		留鳥
56			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○	○		留鳥
57	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	○	○		夏鳥
58		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	○	○		夏鳥
59		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○	○		留鳥
60		カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	○	○	○	留鳥

表 7-12 文献調査 鳥類確認種(2/3)

No.	目名	科名	種名	学名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分
61			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	○	○		留鳥
62			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○		留鳥
63		キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	○	○		冬鳥
64		シジュウカラ	コガラ	<i>Poecile montanus</i>	○	○		留鳥
65			ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	○	○	○	留鳥
66			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	○	○		留鳥
67			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○	○		留鳥
68		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○			留鳥
69		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○	○		夏鳥
70			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	○	○		夏鳥
71			イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	○	○		夏鳥
72		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○		留鳥
73		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	○		留鳥
74			ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	○	○		夏鳥
75		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○	○		留鳥
76		ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	○			旅鳥
77			メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	○	○		旅鳥
78			エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	○	○		旅鳥
79			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○	○		夏鳥
80		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○	○		留鳥
81		セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	○			留鳥
82		レンジャク	キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>		○		冬鳥
83			ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>		○		冬鳥
84		ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	○	○		留鳥
85		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	○	○		留鳥
86		カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	○	○		留鳥
87		ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	○	○		冬鳥
88			クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	○	○		夏鳥
89			マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>	○			旅鳥
90			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	○	○	○	冬鳥
91			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	○	○		旅鳥
92			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	○	○		冬鳥
93			コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>	○	○		旅鳥
94			コルリ	<i>Luscinia cyane</i>		○		旅鳥
95			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	○	○		冬鳥
96			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	○	○		冬鳥
97			ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>	○			旅鳥
98			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○	○		留鳥
99			エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	○	○		旅鳥
100			サメビタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>	○			旅鳥
101			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	○	○		夏鳥
102			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○	○		夏鳥
103			ムギマキ	<i>Ficedula mugimaki</i>		○		旅鳥
104			オジロビタキ	<i>Ficedula albicilla</i>	○			冬鳥
105			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○	○		夏鳥
106		イワヒバリ	カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>	○	○		冬鳥
107		スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○		留鳥
108		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○	○		留鳥
109			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○	○		留鳥
110			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○	○		留鳥
111			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>		○		冬鳥
112		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	○	○		冬鳥
113			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○	○		留鳥
114			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	○	○		冬鳥
115			ハギマシコ	<i>Leucosticte arctoa</i>	○			冬鳥
116			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>		○		冬鳥
117			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	○	○		冬鳥
118			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	○	○		冬鳥
119			コイカル	<i>Eophona migratoria</i>	○			冬鳥
120			イカル	<i>Eophona personata</i>	○	○		留鳥

表 7-12 文献調査 鳥類確認種(3/3)

No.	目名	科名	種名	学名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分
121		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○	○		留鳥
122			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	○	○		冬鳥
123			ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>		○		冬鳥
124			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	○	○		冬鳥
125			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	○	○		冬鳥
126	(キジ)	(キジ)	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>		○		外来
127	(ハト)	(ハト)	ドバト	<i>Columba livia</i>	○	○		外来
128	(スズメ)	(チメドリ)	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	○	○		外来
計	16 目	44 科	128 種		116 種	106 種	5 種	

・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。

・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」(2017年3月31日, (財)日本野鳥の会大阪支部)に従った。

② 鳥類重要種

文献調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は9目18科30種であった。確認された重要種を表7-13に示す。

今回の調査で、種の保存法記載種が1種、環境省レッドリスト記載種が13種、大阪府レッドリスト記載種が22種確認された。該当種には陸鳥が多く、タカ目、ハヤブサ目等、猛禽類が多く含まれている。

表7-13 確認された重要種

No.	目名	科名	種名	学名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	カモ	カモ	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>		DD	
2			アカハジロ	<i>Aythya baeri</i>		DD	
3	ペリカン	サギ	チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>		NT	
4	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>			NT
5	チドリ	チドリ	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>		DD	NT
6			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>			VU
7			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>			NT
8			シギ	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>		
9	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>		NT	
10		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		NT	CR+EN
11			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>			VU
12			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		NT	
13			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>		NT	NT
14			サシバ	<i>Butastur indicus</i>		VU	CR+EN
15			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>			NT
16	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>			NT
17			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>			VU
18	ブッポウソウ	ブッポウソウ	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>		EN	
19	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○	VU	
20	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>		VU	VU
21		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>			NT
22		ツバメ	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>			NT
23		ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>		DD	
24			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>			NT
25		セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>			NT
26		カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>			NT
27		ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>			NT
28			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>			VU
29		ホオジロ	カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>			NT
30	ミヤマホオジロ		<i>Emberiza elegans</i>			NT	
計	9目	18科	30種		1種	13種	22種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

③ 哺乳類確認種

文献・資料調査の結果、大阪府立環境農林水産総合研究所および明治の森箕面自然休養林管理運営協議会による自動撮影カメラを用いた野生動物モニタリング調査から自動撮影カメラのデータの提供を受け、5目10科14種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表 7-14 に示す。学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定2版」(東海大学出版会、2008)に従った。

表 7-14 文献・資料調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	種名	学名
1	サル目	オナガザル科	ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>
2	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>
3	ネズミ目	リス科	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>
4	ネコ目	イヌ科	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>
5			キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>
6		イタチ科	ニホンアナグマ	<i>Meles meles anakuma</i>
7			テン	<i>Martes memlampus</i>
8	イタチ属の一種		<i>Mustela sp.</i>	
9	鯨偶蹄目	イノシシ科	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>
10		シカ科	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>
11	(ネコ目)	(アライグマ科)	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>
12		(イヌ科)	ノイヌ	<i>Canis familiaris</i>
13		(ジャコウネコ科)	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>
14		(ネコ科)	ノネコ	<i>Felis catus</i>
	5目	10科		14種

※資料の出典は2016年～2021年の大阪府立環境農林水産総合研究所および明治の森箕面自然休養林管理運営協議会による自動撮影カメラを用いた野生動物モニタリング調査による。

④ 哺乳類重要種

文献・資料調査で確認された哺乳類のうち、重要種に該当する種はニホンザル1種であった。確認された重要種を表 7-15 に示す。なお、箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区では、「箕面山のニホンザル生息地」が天然記念物として指定されている。

表 7-15 確認された重要種

No.	目名	科名	種名	学名	文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	サル目	オナガザル科	ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>	※			NT
計	1目	1科		1種	1種	0種	0種	1種

NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
※生息地として指定。

8. まとめ

1. 現地調査と文献調査により、16目44科128種の鳥類が確認され、そのうち30種が重要種であった(表8-1)。
2. 現地調査の結果、9目24科39種の鳥類が確認された。各調査回の確認種数は繁殖期が24種、秋期が18種、越冬期が23種であった。また、確認した鳥類の渡り区分の内訳は、留鳥61%、夏鳥18%、冬鳥15%と、留鳥の割合が半数以上を占め、次いで夏鳥の割合が高い結果となった。繁殖が確認された種(Aランク)は1種、繁殖の可能性が高い種(Bランク)は11種であった。

ラインセンサス法及び定点観察で記録された鳥類は、7目19科29種238羽であり、ラインセンサスR1では21種168羽、定点調査P1では22種70羽であった。ラインセンサスでは繁殖期、秋期、越冬期を通じてヒヨドリ、メジロの個体数が多かったが、繁殖期にはオオルリ、越冬期にはエナガ、ソウシチョウがこれに準じて多く確認された。定点観察では上空を飛翔するミサゴ、ノスリなどの猛禽類、ツバメ類、カルガモなどが記録された。種別の個体数は山林が主な環境であるため、樹林性のメジロ、ヒヨドリが多く、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガといった、群れで樹林を移動しながら採餌する種がこれに続いた。また、箕面川の溪流を中心とした地域であることから、オオルリもこれらと同等の個体数が確認された。生息密度はメジロ、ヒヨドリが各期を通じて高く、特に秋期には渡りと思われる群れが加わって密度が高かった。繁殖期にはこれらに加え、沢沿いを好むオオルリを始めヤブサメ、センダイムシクイ等なわばりを張って繁殖する鳥の密度が高く、越冬期にはエナガ、ソウシチョウをはじめとしてシジュウカラ、ヤマガラのような群性のある種の生息密度の高さが特徴となっていた。
3. 文献調査の結果、16目44科128種の鳥類が確認され、そのうち30種が重要種であった。これら確認種の渡り区分の内訳は、留鳥42%、夏鳥14%、冬鳥31%、旅鳥10%、迷鳥1%であり、現地調査の結果と同様に、留鳥が一番高く、次いで冬鳥が高い割合を示した。
4. 現地調査における重要種は3目7科8種であった。環境省レッドリスト記載種4種、大阪府レッドリスト記載種5種が確認された。また、文献調査における重要種は8目18科30種で種の保存法記載種は1種、環境省レッドリスト記載種は13種、大阪府レッドリスト記載種は22種であった。重要種の内訳では、タカ目やハヤブサ目等の猛禽類の占める比率が高かった。
5. このように箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区は、一年中生息する留鳥を主体として、冬期に滞在する冬鳥が多く生息し、次いで夏季に繁殖する夏鳥が多く渡来し、山野の鳥類の生息に適した環境であると考えられた。確認種の中には法律によって保護されるハヤブサを筆頭に、オオタカやフクロウなど、生態系の上位を占める猛禽類が多く含まれ、地域の生態系が充実していることが示唆された。以上より、箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区は府域の鳥類の生息地として非常に貴重な地域であると言える。
6. 哺乳類については、現地調査で3種が確認されたほか、鳥獣保護区を含む箕面地域で広く実施されているニホンジカの調査から、箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区に設置された自動撮影カメラによって5目10科14種の生息が確認された。これらの中には当地においてその生息地が天然記念物に指定されるニホンザルが含まれる一方、特定外来生物に指定されるアライグマや、ノイヌやノネコといった野生化した家畜も確認された。

7. 以上のように、箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区は、多くの繁殖鳥類と哺乳動物が生息する山林が、市街地に隣接する位置に設定されている。名勝や府営公園、国定公園として多くの利用者が来訪し、紅葉や滝などの景勝と共に多くの野生鳥獣と接することができる。今後も保護区の特別保護地区として更新を続け、貴重な野生鳥獣の保護に特別の配慮を施した上で、これに身近に体感できる優良な野生鳥獣の生息地として、より良い環境を整えることが重要であると考えられる。

表 8-1 現地調査・文献調査の確認種(1/3)

No.	目名	科名	種名	学名	現地調査			文献調査
					繁殖期	秋期	越冬期	
1	キジ	キジ	ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>				○
2			キジ	<i>Phasianus colchicus</i>				○
3	カモ	カモ	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>				○
4			オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>				○
5			ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>				○
6			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>				○
7			アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>				○
8			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>				○
9			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○			○
10			ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>				○
11			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>				○
12			コガモ	<i>Anas crecca</i>				○
13			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>				○
14			アカハジロ	<i>Aythya baeri</i>				○
15			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>				○
16			ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>				○
17	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>				○
18			カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>				○
19	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>		○	○	○
20			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>				○
21	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○			○
22	ペリカン	サギ	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>				○
23			ササゴイ	<i>Butorides striata</i>				○
24			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>				○
25			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>				○
26			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>				○
27			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>				○
28	ツル	クイナ	バン	<i>Gallinula chloropus</i>				○
29			オオバン	<i>Fulica atra</i>				○
30	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>				○
31			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>				○
32			カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>				○
33	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>				○
34			ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>		○		○
35	チドリ	チドリ	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>				○
36			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>				○
37			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>				○
38		シギ	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>				○
39		カモメ	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>				○
40		タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○		○
41	タカ		ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>				○
42			トビ	<i>Milvus migrans</i>		○	○	○
43			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>				○
44			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>				○
45			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>				○
46			サシバ	<i>Butastur indicus</i>				○
47			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>		○	○	○
48	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>				○
49			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>				○
50	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○			○
51	ブッポウソウ	ブッポウソウ	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>				○
52	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○	○	○	○
53			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>				○
54			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	○	○	○	○
55	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>				○
56			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○			○

表 8-1 現地調査・文献調査の確認種(2/3)

No.	目名	科名	種名	学名	現地調査			文献調査
					繁殖期	秋期	越冬期	
57	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	○	○	○	○
58		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	○			○
59		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>				○
60		カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>				○
61			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>		○	○	○
62			ハシトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	○
63		キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>				○
64		シジュウカラ	コガラ	<i>Poecile montanus</i>				○
65			ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	○	○	○	○
66			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>				○
67			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○	○	○	○
68		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>				○
69		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○			○
70	コシアカツバメ		<i>Hirundo daurica</i>	○			○	
71	イワツバメ		<i>Delichon dasypus</i>				○	
72	ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○	○	
73	ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>			○	○	
74		ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	○			○	
75	エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○	○	○	○	
76	ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>		○		○	
77		メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>				○	
78		エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>				○	
79		センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○			○	
80	メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○	○	○	○	
81	セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>				○	
82	レンジャク	キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>				○	
83		ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>				○	
84	ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>				○	
85	ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>				○	
86	カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>				○	
87	ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>				○	
88		クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>				○	
89		マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>				○	
90		シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>			○	○	
91		アカハラ	<i>Turdus chrysolais</i>				○	
92		ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>				○	
93		コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>				○	
94		コルリ	<i>Luscinia cyane</i>				○	
95		ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>			○	○	
96		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>			○	○	
97		ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>				○	
98		イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>				○	
99		エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>				○	
100	サメビタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>				○		
101	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	○	○		○		
102	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○			○		
103	ムギマキ	<i>Ficedula mugimaki</i>				○		
104	オジロビタキ	<i>Ficedula albicilla</i>				○		
105	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○			○		
106	イワヒバリ	カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>				○	
107	スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>				○	
108	セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○	○	○	○	
109		ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>				○	
110		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>		○		○	
111		ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>				○	
112	アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>				○	
113		カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○			○	

表表 8-1 現地調査・文献調査の確認種(3/3)

No.	目名	科名	種名	学名	現地調査			文献調査	
					繁殖期	秋期	越冬期		
114	スズメ	アトリ	マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>				○	
115			ハギマシコ	<i>Leucosticte arctoa</i>				○	
116			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>				○	
117			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>				○	
118			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>				○	
119			コイカル	<i>Eophona migratoria</i>				○	
120			イカル	<i>Eophona personata</i>			○	○	
121			ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>				○
122				カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>				○
123				ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>				○
124		アオジ		<i>Emberiza spodocephala</i>			○	○	
125		クロジ		<i>Emberiza variabilis</i>			○	○	
126		(キジ)	(キジ)	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>				○
127		(ハト)	(ハト)	ドバト	<i>Columba livia</i>				○
128		(スズメ)	(チメドリ)	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>			○	○
計	16 目	44 科	128 種		24 種	18 種	23 種	128 種	

表 8-2 現地調査・文献調査の重要種

No.	目名	科名	種名	学名	現地調査			文献調査	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
					繁殖	秋期	越冬				
1	カモ	カモ	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>				○		DD	
2			アカハジロ	<i>Aythya baeri</i>				○		DD	
3	ペリカン	サギ	チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>				○		NT	
4	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>				○			NT
5	チドリ	チドリ	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>				○		DD	NT
6			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>				○			VU
7			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>				○			NT
8		シギ	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>				○			NT
9	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>			○	○		NT	
10		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>				○		NT	CR+EN
11			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>				○			VU
12			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>				○		NT	
13			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>				○		NT	NT
14			サシバ	<i>Butastur indicus</i>				○		VU	CR+EN
15			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>		○	○	○			NT
16	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>				○			NT
17			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>				○			VU
18	ブッポウソウ	ブッポウソウ	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>				○		EN	
19	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○			○	○	VU	
20	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	○	○	○	○		VU	VU
21		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>				○			NT
22		ツバメ	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	○			○			NT
23		ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>				○		DD	
24			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○			○			NT
25		セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>				○			NT
26		カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>		○		○			NT
27		ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>				○			NT
28			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	○	○		○			VU
29		ホオジロ	カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>				○			NT
30			ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>				○			NT
計	9 目	18 科	30 種		5 種	4 種	3 種	30 種	1 種	13 種	22 種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

9. 参考文献

1. 「環境省レッドリスト 2021」(2021年, 環境省)
2. 「大阪府レッドリスト 2014」(2014年, 大阪府)
3. 「「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令」の閣議決定について」(2019年1月, 環境省報道発表資料)
4. 「大阪府鳥類目録 2016」(2016年, (財) 日本野鳥の会大阪支部)
5. 「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)
6. 「箕面勝尾寺鳥獣保護区指定調査報告書」(2011年, 大阪府)
7. 「箕面国有林概要」(近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所 箕面森林事務所)
8. 「箕面公園マネジメントプラン」(2020年, 池田土木事務所)
9. 「箕面の自然ーその生態学的基礎研究ー」(1967年, 水野寿彦・水野信彦 編)
10. 「名勝箕面山保存管理計画」(1989年, 大阪府教育委員会)
11. 「第五次箕面市総合計画 後期基本計画」(2016年, 箕面市)
12. 「自動撮影カメラを用いた野生動物モニタリングデータ」(2016年～, 大阪府立環境農林水産総合研究所および明治の森箕面自然休養林管理運営協議会)